

## ポリティカルコレクトネス

2023. 3. 24

「ポリティカルコレクトネス」とは、政治的な正しさ（政治的な妥当性）と訳される。これは、特定の民族や人種、宗教、性別、職業、年齢などに対して差別的な表現を避けることである。困っている当事者が不快感を覚えたり、屈辱的な思いをしたり、一見問題がなさそうなことでも今後の差別につながったりしそうな可能性がある言葉や表現を選ばないという姿勢や考え方を指す。

アメリカで、1980年頃からの左派運動の中で生まれた言葉である。政治的に賢明で正しいとされるが、自己嘲笑をするような皮肉の言葉として使われてきた。現代のポリティカルコレクトネスには、様々な定義がある。ポイントは、その表現は特定の誰かを排除していないか、すでに不利益を被っている人や差別を受けている人が、さらに困ることにならないかどうかである。

例えば、インターネット広告などで、特定の人の容姿への偏見や侮辱が含まれていた表現があったとする。誰も声をあげずにいると、何も問題にならなかったとその表現が容認されたことになる。すると、その状況が変わることはなく、差別が繰り返されかねないという考え方である。広告の他に、テレビ番組や映画、音楽、小説、ゲームなど、多数の人が触れる分野が議論の対象となることが多い。

身近なポリティカルコレクトネスとして、差別語や不快語の言い換えがある。特に多くの人に触れる広告や報道の現場では、言葉選びや表現に注意が払われ、時代の変化に合わせて常に最適な表現が模索されている。

例えば、日常生活では一般的な〇〇屋は、軽蔑を込めて使われた歴史的背景から差別表現とされ、報道する際は〇〇店に置き換えられている。他にも、次のような配慮がされるようになっている。日本の場合だと、保母は保育士、看護婦は看護師、ビジネスマンはビジネスパーソン、カメラマンはフォトグラファーなどである。海外だと、Fireman が Firefighter、American Indian が Native American となる。

国際化社会の進展に伴い、ビジネスシーンのみならず、社会のあらゆる場面でポリティカルコレクトネスという概念が浸透してきている。社会に生きる一人一人が差別や偏見に基づいた表現や認識を改め、他者に対して寛容であるべき社会を目指すためにも、ポリティカルコレクトネスをよく理解していかなければならない。

教育の場に携わる教員は、このポリティカルコレクトネスを理解しておく必要がある。ただし、その考え方が行きすぎてしまうと、言論弾圧や言葉狩りといった事態に発展してしまう恐れがある。ポリティカルコレクトネスは社会的弱者やマイノリティなどを守るため、差別や偏見をなくすための運動であり、人を不用意に攻撃するためのものではない。このことも理解しておかなければならない。教育の場に立つ教員だからこそ、こういったことには敏感にならなければならない。